

熊本大学学術リポジトリ

Kumamoto University Repository System

Title	編輯後記
Author(s)	梅崎; 東
Citation	龍南, 231: 79-80
Issue date	1935-06-15
Type	Departmental Bulletin Paper
URL	http://hdl.handle.net/2298/7277
Right	

編輯後記

◇阿部が死んだ事は部に取つても相當な痛手であつた。三學期あたり、からだをずいぶん無理して使つて居たやうであつたが、まさか、かう言ふ事になるとは思ひもしなかつた。阿部の家に行つて遺稿でもと聞いてみたら、まだ故人の机とか書棚とかは整理して居ないから、そんなものがあるかないかも判らないと言ふ返事であつた。

◇なほ、生前、阿部は、五高に文學研究會を作りたい意向を私に示すことがしばしばで可成綿密な具体案をこしらへて居たやうであるが、それもお流れになつたのは残念である。誰か一年二年あたりで、さうした事に興味を持つ人は、ひとつやつて見たらどうだらうか。私は、もう一年足らずで去り行く（譬の）身であるから、どうともしやうもないが、一年二年あたりまだ先長いことだから、そんなものをつくつて、その方面の修業に務めるの面も白からうと思ふ。

◇投稿の中、阿部の追悼の文が一篇あつて、一讀胸をうつ眞情にあふれたものであつたが、雑誌の性質上掲載を見合した。悪しからず。

◇今度は、私も奮發して、創作を一つ作つたのだが、部長の意見で發表を差し控へることとした。そのため、大きな穴が出来て非常に難儀したので、發行がこのやうにおくれた。之もひ

とへに私の不明からで、この點諸兄に御詫したい。

◇私の話について。

何か批評を聞きたい。惡意から出た批評でない限り喜んで受け入れもしやし、反ばくもしやう。これは何の私も話ばかりではなく「龍南」に最も必要なのは批評家なのだ。一學期は批評會が開かれるかどうかともわからないが、開けたら、その方面に興味持つ人は來てほしい。

◇文學ほど非生産的なものはないとか、そんな考へを持つて居る人が、まだ龍南に居るやうだ。そんな人の生活が果して生産的であるかと言ふに、さうではなくて、やはり非生産的な生活をして居る。一体、此のやうな精神的な事業が生産的とか非生産的とかそのやうな尺度ではかれるかどうか考へなほして見るがいい。

◇最後に投稿者諸兄の健康をいのる。（梅崎）

後記

應募作に就いて論ずる前に一言。

我々委員は「龍南」に對する非難を屢々耳にする。即ち或者は「龍南」を以て内容に乏しいイデオロギーの缺如したものととして輕蔑し、或者は軟弱なる作品を包含する一顧の價値なきものとして頭から黙殺せんとする。

勿論これらのものは「龍南」に對する認識不足より來るもので

龍南人全体より見れば僅少な部分で、多數の人は龍南に對して理解ある同情を持つてゐられる事を確信するけれども、それも今度のやうに少い應募を目の前に見てはこれもうらつかざるを保ない。

先輩委員も屢々述べられた様に「龍南」は決して文藝同人雜誌でもなく又たどの會報でもない。全龍南人のすべての意志感情の唯一の發表機關誌としてもつと尊重されてもよいものだと思ふ。他の二三の高校で文藝廢止などの非常識的な叫びが公然と行はれてゐる時理解ある部長と多數の才能ある人を擁する全龍南人がその雜誌を自ら權威のないものとするのは實の持ち腐れとも云ふべき怪しむべき事だ。

特に今度の一年二年の諸君の無氣力（私は敢へて云ふ）は未曾有の事だ。學門スポーツその他で精力を消費して文藝まで手が廻らぬとは云はせない。何となれば學門と文藝は眞の意味では並行すべきものだ。兎に角一、二年の諸君の奮起を望む事切である。

一一の作品に就いては論ずるまでも無からう。たゞ私のだけに就いて言へばこれは、私自ら駄作であると素直に認める。しかしこの駄作でさへも「龍南」の末端を汚さねばならぬのは誰の責任か！諸君は私をせめる前に反省して欲しい。そして來るべき懸賞號に續々と新人かあらはれて私がこんな恥かしい思を二度とくりかへす必要がない様になる事が出來るなら私にとつてこれ以上の幸はないのだ。

何にせよ創作がこれだけでは余りに淋しい。實はもう一篇あ

つたのだが止むを得ぬ事情で載せる事が出來なくなり、この代りを百方骨折つたけれども私たちがその代償として得たのは私たちに對する非難と嘲笑と輕侮だつた。

しかし私は決して失望しない。試みに短歌俳句詩を見るとこゝには多くの新人か口をならべてレベル以上のものを多く提供して居るのを見る。

この事に徴しても決して輕率に「龍南」衰へたりなど叫ぶべきでない。兎に角次回を期待してこの231號を贈る。

次に傷むべきは我が部の至寶阿部辰生君を失つた事だ。君の才筆は赫然光つてゐたのに今や忽然と去りて痛恨にたへぬ。こゝに深く彼を弔ふと共に一日も早く二年生中に彼に代るべき人物の出現を切望して上まない。

また論文の一つも出なかつた事も残念だつた。「龍南」が同人雜誌でない以上、科學的の論文なども大に歡迎さるべきで、これは特に理科の諸君に期待して置く。

最後に短歌詩俳句を見てゐたやうな上田英夫先生の御盡力に對し厚くお禮を申して置きます、（東）

